

認知症基本法にもとづくNCNPの取り組み

認知機能の低下のない人
プレクリニカル期

認知機能の低下のある人(MCI含む)

認知症の人

① 認知症の人に関する国民の理解の増進等

- ・認知症市民公開講座の開催(年1回)、世界アルツハイマーイベントの開催(年1回)、認知症サポーター養成講座の開催(年1回)

② 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進 ③ 認知症の人の社会参加の機会の確保等

- ・小平市在宅医療介護連携推進協議会、小平市ネットワーク会議、北多摩北部保健医療圏医療介護連携協議会

④ 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護

⑤ 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等

⑥ 相談体制の整備等

- ・NCNP認知症センター、東京都認知症疾患医療センターとしての活動
 もの忘れ外来(初診患者数:609名/年)、レカネマブ外来(患者数:21名)
 専門医療相談(776件/年)、若年性認知症者と家族の相談対応・情報提供(45/年)
- ・認知症初期集中支援チーム(月1回)、小平市もの忘れ相談会(年5回)
- ・認知症カフェ(オレンジカフェ)(月1回、参加者:20名/月)
- ・人材育成:ブラッシュアップ研修(年1回)、介護支援リーダー研修・講師派遣(年2回)

⑦ 研究等の推進等

⑧ 認知症の予防等

- ・こだいら健康ポイント事業(参加者:140名/年)
- ・もの忘れチェック会(年10回、定員20名)
- ・MCIを対象としたリハビリテーションプログラム(年3クール)

認知症センター／認知症疾患医療センター構成員

認知症センター長／認知症疾患医療センター長：大町佳永

【もの忘れ外来／専門医療相談】

医師：
 <脳神経内科>塚本忠、雑賀玲子、勝元敦子
 <精神科>大町佳永、高野晴成、稻川拓磨
 <総合内科>長田高志

認知症看護認定看護師：野崎和美

心理士：富澤安寿美、細川直子、松井眞琴、吉武美紀、
 藤巻知夏

ソーシャルワーカー：小灘登志子

【認知症をもたらす疾患/合併症の診断・治療】

<脳神経外科>岩崎真樹、木村唯子
 <放射線科>佐藤典子
 <脳神経内科>高橋祐二、水澤英洋
 <精神科>沖田恭治
 <総合内科> 高尾昌樹、水澤英洋
 <歯科>福本 裕
 <看護>渡邊彰文
 <臨床心理室>出村綾子
 <医療連携>澤恭弘、花井亜紀子、外山 愛

【リハビリテーション】

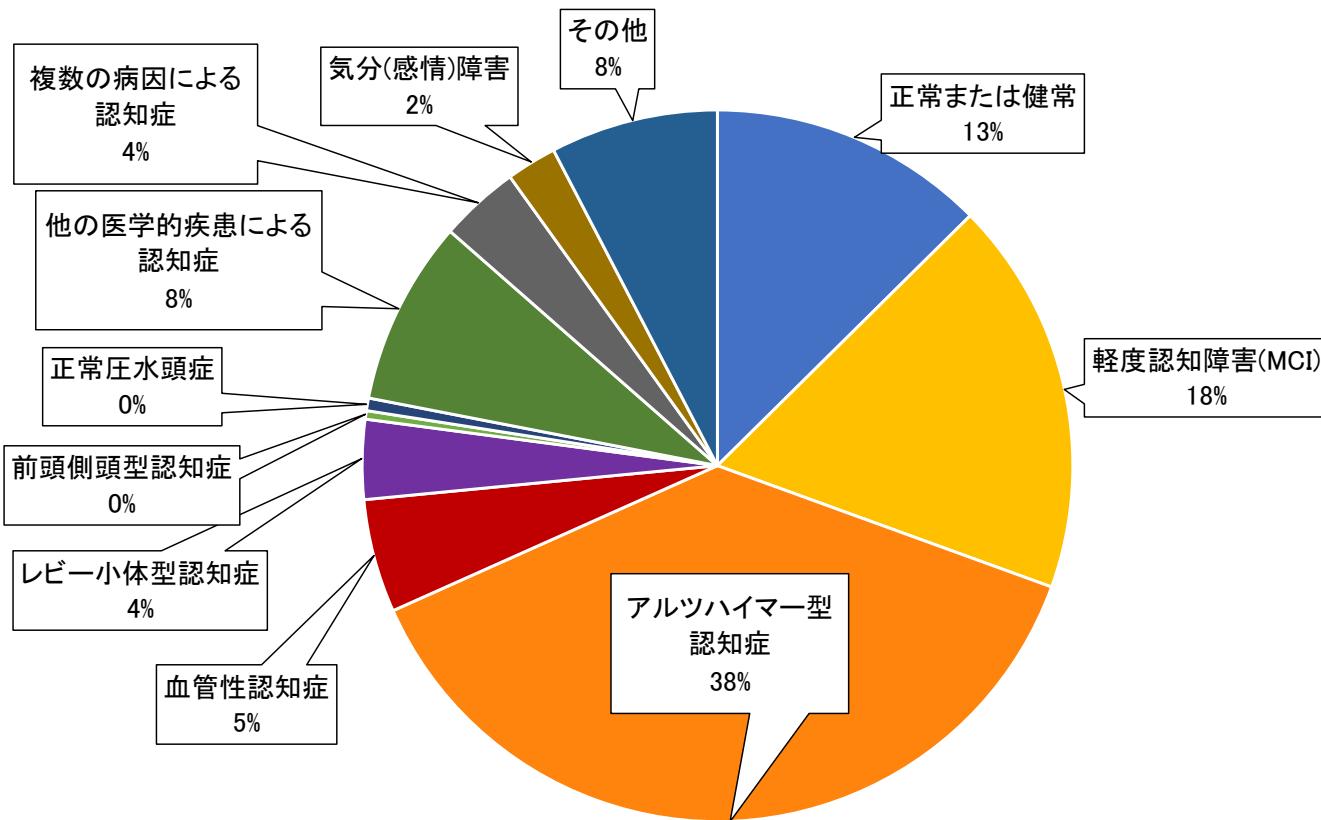
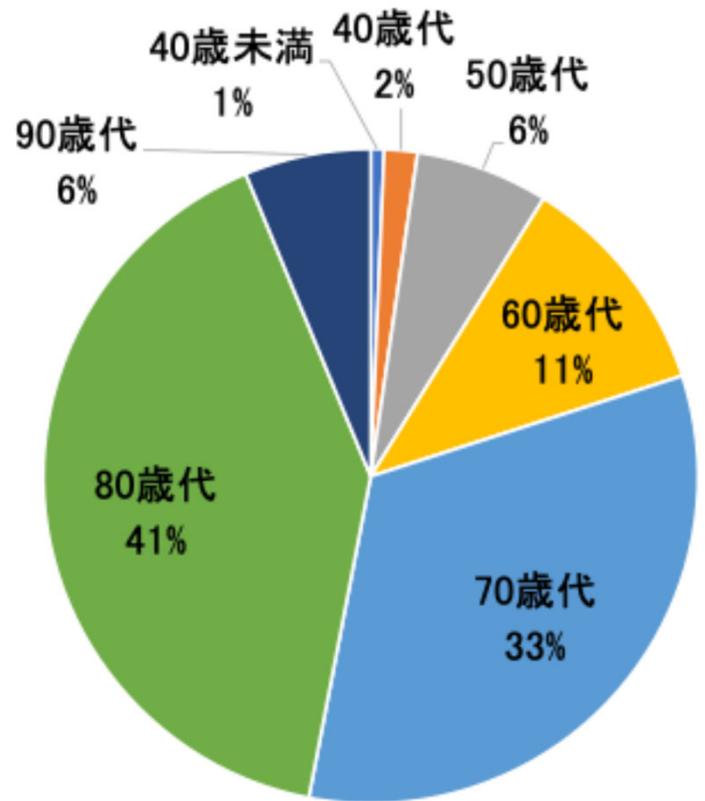
<身体リハビリテーション>原 貴敏
 <精神リハビリテーション>吉村直記

【研究所等 その他研究部門】

<レジストリ等>水澤英洋、岩坪威(神経研究所)
 <治験>中村治雅
 <画像>高野晴成(脳病態統合イメージングセンター)
 <病理>高尾昌樹
 <バイオバンク・遺伝子>後藤雄一(メディカル・ゲノムセンター)
 <認知行動療法等>久我弘典(認知行動療法センター)



もの忘れ外来



⑦ 研究等の推進等

認知症センターは、NCNPで行われている認知症に関する臨床研究・治験のハブ(中核)としての役割を果たしている。

【主な研究活動】

● もの忘れチェック会

認知症の早期発見・介入のため的一般高齢者を対象とした検診。認知症予防・進行抑制に関する講演、臨床研究についての情報提供と共に、MCI～認知症の範疇にある人にはもの忘れ外来の受診をすすめる。(年10回、定員20名)

● 血液バイオマーカーを用いた認知症検診モデルの構築

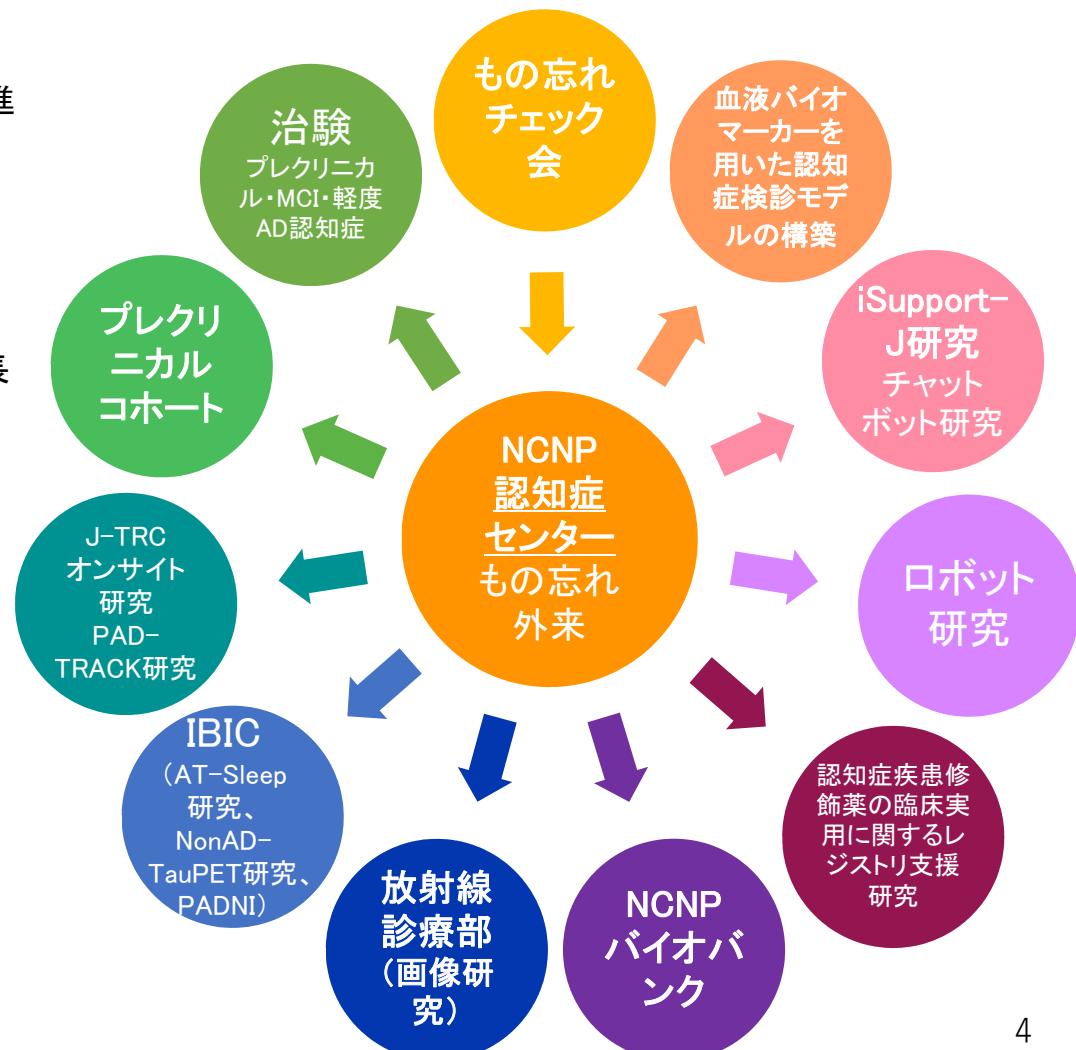
もの忘れチェック会参加者を対象に、血液バイオマーカーを測定し、心理検査等による定期的なフォローアップ、認知症進行予防のための生活指導等を行う。血液バイオマーカーのリスク評価と認知症進行状況との整合性を検討する。国立長寿医療研究センター、国立循環器病研究センターとの共同研究。

● iSupport-J研究

WHOによって開発された認知症介護者のためのオンライン自己学習プログラムiSupportの日本版を作成し、その有用性を検証するためのRCTを実施。iSupport日本版を通して、介護者が認知症についての知識や介護福祉サービス、介護者自身のケアの必要性、介護の方法、BPSDへの対応について学習することで、精神的ストレスの軽減、自己効力感やメンタルヘルスの向上を目指す。→RCTの結果、iSupport-Jの3ヶ月間の使用により、認知症介護者の介護負担感が軽減することが示唆された。

● レジストリ研究

- ・プレクリニックル期の縦断観察研究。
- ・プリオント病のレジストリを構築し、自然歴を調査。現在、国際共同治験中。
- ・アルツハイマー病の疾患修飾薬(レカネマブ等)の実臨床における安全性と効果を解析するための大規模なレジストリを構築。In-houseの支援研究でその様々な課題を解決する。



MCIを対象としたリハビリテーションプログラム

軽度認知障害（MCI）／認知症リハビリテーション

脳とからだの いきいき健康 プログラム ～こころもからだもしなやかに～



「脳とからだのいきいき健康プログラム」ってなに？

認知機能低下の進行予防のためには、生活習慣を整えることが重要です。今後どのような生活を送ればいいか、座学とトレーニングを通して学びませんか？

対象となる方

- 最近、「忘れやすくなったなあ」と感じる方
- 生活にメリハリをつけたい方
- 認知症予防に関心がある方
- 今後もいきいきとした生活を送りたい方

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター病院
認知症疾患医療センター
〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1

☎ 042-341-2711

※案内が流れましたら、3番を押していただき、交換手に「認知症疾患医療センターにつないでください」とお伝えください。

- 当院を受診したMCI患者を対象とする認知機能低下・進行予防のためのリハビリテーションプログラム
 - 身体および精神リハビリテーション部と共同で作成
 - 内容：生活習慣の改善を目指した講話、個別での身体機能評価、運動と認知トレーニング。年間3クール実施。
1クール（2024年度～）：全7回（前後に身体評価2回あり）、週1回、1回あたり3時間、定員6～7名
 - プログラム終了後は、地域のデイサービスやカルチャーセンター、当院ショートケアなどにつなげる。
→現在までに5名が当院ショートケアにつながっている。
 - 2022年～2023年 2名に対してトライアル
心身機能に対する自信が回復し、自発性と活動量が改善した。
- 2024年1月～ 本格始動**
- 現在までに2クール実施。1クール毎にプログラムの見直しを行っている。